

容易でないが、やる必要がある。

C から E へ、更に G へといく段階の進展はそれ自身として滑らかであり、また個々の概当する群の性質や他の地域における類似種の分化の様式等から判断して、これは単なる型ではなく正しく、過去に磐越地塊が西日本との対応関係において演じた種分化の各段階であるとみられる。これは分布の切断による群の分離、(いはば血の隔離)、ついで分離した小面積区における変異の生起を如実に示すもので、かかる一連の段階が重なり合つて現在みられるのは、各群における変異の許容度と分布能力と環境としての地史との三者の総合効果であろう。日本本州の如き、一つの島として、一つの生物地理的単位として見なしがちな場合に、こういう地理的隔離による種分化 (speciation) を見事に示す場合があることそれと同時に分布における段階 (stage) と型 (type) との相互関連への注意喚起の二つをここで述べたかつたのである。

## 文 献

- 1) 林 弥栄: 林業試験場研究報告. 日本産重要樹種の天然分布. 1. (1951) 2) H. Suzuki: Jap. Journ. Bot. 15: 186 (1956). 3) 前川文夫: 日本生物地理学会紀事 No. 1: 22 (1948) 及び ———: 植研誌 24: 91-96 (1949). 4) 小野幹雄: 日本植物学会大会 (札幌) 講演 (1956).

## Résumé

The distributional map of *Sciadopytis* shows a very distinct disjunction in its north-eastern area. This wide gap (ca. 260 km in width) is considered as the result caused by Fossa Magna in Miocene epoch. Some imaginable types in the changing patterns of Japanese flora, correlating to these areas, were discussed and a unique example of species-speciation by isolation was explained.

**○シナノキンバイ早池峯山に産す** (小水内 長太郎) Chotaro KOMIDZUNAI:  
*Trollius japonicus* Miquel found on Mt. Hayachine.

シナノキンバイは本州の中部、北部及び北海道等の高山帯に生ずる多年生草本で、岩手県では奥羽山系八幡平に菊地政雄氏によつて採集記録されているが、北上山系早池峯山 (1913 m) には未だに本種の産することが記録されていない。筆者は 1955 年 7 月 17 日本山の山頂近い南斜面で同種を得たので記録する。

本種の自生地は同山中岳寄りの山頂近い所であるが、高山としては比較的表土が深く、水湿にも富んでいる。あたりにはエゾシオガマも見られ、1950 年 8 月 2 日には筆者が此の附近でチシマギキョウを採集している。終りに助言を戴いた岩手大学菊地政雄氏に謝意を表する。(岩手県達磨部中学校)